



## 2024年3月期 決算短信(日本基準)(非連結)

2024年4月30日

上場会社名 株式会社 田谷  
コード番号 4679 URL <https://www.taya.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 隆昌  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画グループ長 (氏名) 富岡 亮平 TEL 03-6384-2231  
定時株主総会開催予定日 2024年6月18日 有価証券報告書提出予定日 2024年6月19日

配当支払開始予定日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期の業績(2023年4月1日～2024年3月31日)

#### (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	5,839	2.7	23		28		158	
2023年3月期	6,004	7.9	619		602		804	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	31.78		29.9	1.3	0.4
2023年3月期	161.08		79.4	21.5	10.3

(参考) 持分法投資損益 2024年3月期 百万円 2023年3月期 百万円

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	2,005	451	22.5	90.44
2023年3月期	2,366	610	25.8	122.22

(参考) 自己資本 2024年3月期 451百万円 2023年3月期 610百万円

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	25	14	69	266
2023年3月期	582	119	108	375

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年3月期		0.00		0.00	0.00			
2024年3月期		0.00		0.00	0.00			
2025年3月期(予想)		0.00						

(注) 2025年3月期の配当につきましては、今後、業績の動向を勘案して決定してまいります。

### 3. 2025年3月期の業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,766	2.7	15		3		12		2.49
通期	5,750	1.5	160		140		100		20.11

## 注記事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	: 無
以外の会計方針の変更	: 無
会計上の見積りの変更	: 無
修正再表示	: 無

### (2) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期	5,100,000 株	2023年3月期	5,100,000 株
期末自己株式数	2024年3月期	102,946 株	2023年3月期	102,946 株
期中平均株式数	2024年3月期	4,997,054 株	2023年3月期	4,997,054 株

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1、経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	2
(4) 今後の見通し .....	3
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 貸借対照表 .....	5
(2) 損益計算書 .....	7
(3) 株主資本等変動計算書 .....	8
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11
(持分法損益等) .....	12
(1株当たり情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	13
4. その他 .....	14
(1) 役員の異動 .....	14
(2) その他 .....	14

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の沈静化により経済・社会活動の正常化が進むとともに、インバウンド需要が増加するなど、緩やかな回復基調がみられました。一方で、ウクライナ情勢の長期化やイスラエル情勢等の地政学リスクの懸念、原材料価格やエネルギー価格の高騰、円安進行からの物価上昇が続いており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

美容業界におきましては、美容室のオーバーストア状態による店舗間競争の激化や労働需給逼迫による美容師の獲得難、物価上昇による個人消費の停滞の懸念もあり、当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社は2023年4月に、中期経営計画の見直しを行い、新たに『TAYA BX (Beauty Transformation) PROJECT』として始動、事業構造改革・戦略的リブランディング・DXなどの重要施策を推進し、早期経営改善、利益体質の実現へ向け取り組んでおります。

店舗の状況につきましては、フリーランス美容室ブランド「ano」を新設し、2店舗（anoたまプラーザ、ano成城）を新規出店いたしました。また、直営美容室については、1店舗（TAYA心斎橋店）を新規出店、1店舗（TAYAたまプラーザ店）を改装、6店舗（TAYAたまプラーザ美しが丘店、TAYA bluelabel イトーヨーカドー湘南台店、TAYA&CO. GINZA 銀座本店、Shampoo十条店、Shampooイオンモール四日市北店、Shampoo光明池店）を閉鎖いたしました。これにより、当事業年度末の店舗数は、美容室67店舗となりました。

以上の結果、当事業年度の売上高は5,839百万円（前年同期比2.7%減）となり、営業損失23百万円（前年同期は営業損失619百万円）、経常損失28百万円（前年同期は経常損失602百万円）となりました。また、店舗閉鎖に係る費用や減損損失などを特別損失に111百万円を計上したことにより、当期純損失は158百万円（前年同期は当期純損失804百万円）となりました。

### (2) 当期の財政状態の概況

当事業年度末の総資産は2,005百万円となり、前事業年度末比361百万円の減少となりました。

流動資産の残高は712百万円（前事業年度末比131百万円減少）、固定資産の残高は1,293百万円（前事業年度末比229百万円減少）となりました。主な要因につきましては、ソフトウェアの増加9百万円、売掛金の増加8百万円があったものの、現金及び預金の減少109百万円、建物の減少69百万円、土地の減少31百万円、敷金及び保証金の減少115百万円があったことによるものであります。

当事業年度末の負債総額は1,553百万円となり、前事業年度末比202百万円の減少となりました。

流動負債の残高は928百万円（前事業年度末比95百万円減少）、固定負債の残高は625百万円（前事業年度末比106百万円減少）となりました。主な要因につきましては、未払費用の増加51百万円、未払消費税等の増加36百万円があったものの、長短借入金の純減69百万円、契約負債の減少68百万円、資産除去債務の減少74百万円、未払金の減少41百万円があったことによるものであります。

当事業年度末の純資産は451百万円となり、前事業年度末比158百万円減少いたしました。

以上の結果、自己資本比率は前事業年度末の25.8%から22.5%に減少いたしました。

### (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ109百万円減少し、266百万円となりました。

また、当事業年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、営業活動の結果支出した資金は25百万円（前期は582百万円の支出）となりました。

これは主に、減価償却費93百万円、減損損失89百万円、未払費用の増加51百万円、未払消費税等の増加36百万円があったものの、税引前当期純損失139百万円、契約負債の減少68百万円、退職給付引当金の減少22百万円、未払金の減少19百万円、法人税等の支払額36百万円があったことによるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、投資活動の結果支出した資金は14百万円（前期は119百万円の支出）となりました。

これは主に、敷金および保証金の回収による収入126百万円、有形固定資産の売却による収入40百万円があったものの、有形固定資産の取得による支出85百万円、資産除去債務の履行による支出58百万円、無形固定資産の取得による支出24百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において、財務活動の結果支出した資金は69百万円（前期は108百万円の収入）となりました。

これは主に、長短借入金の純減69百万円があったことによるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	第48期 2022年3月期	第49期 2023年3月期	第50期 2024年3月期
自己資本比率(%)	43.6	25.8	22.5
時価ベースの自己資本比率(%)	83.6	110.4	99.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	—	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※1. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数(自己株式控除後)により算出しております。

2. 営業キャッシュ・フローは、キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いについてはキャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

3. 「キャッシュ・フロー対有利子負債比率」及び「インタレスト・カバレッジ・レシオ」については、営業キャッシュ・フローがマイナスのため、記載しておりません。

#### (4) 今後の見通し

次期の見通しにつきましては、社会経済活動が正常化し、インパウンド需要の更なる増加が見込まれる一方、不安定な海外情勢や円安に起因する原材料、エネルギーコストの高騰は続くことと見込まれることから、今後も店舗運営コストの上昇が予想されます。また、美容師の獲得難による人手不足も懸念され、次期においても引き続き厳しい経営環境が続くと予想されます。

このような状況の中、当社は、提携企業とのコラボレーションによる共同事業、フリーランスブランドの本格出店、TAYAブランドのリブランディングや人的資本経営・働き方改革の取組強化など、既存事業の安定化と新事業への積極的な展開を同時に推し進め、当期純利益黒字化の達成を目指してまいります。

次期の業績につきましては、売上高5,750百万円（前期比1.4%減）、営業利益160百万円（前期は営業損失23百万円）、経常利益140百万円（前期は経常損失28百万円）、当期純利益100百万円（前期は当期純損失158百万円）を見込んでおります。

なお、上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。事業に影響を与える事象については慎重に見極め、今後修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

### (5) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当事業年度において、物価上昇による店舗運営コストの増加など厳しい経営環境ではあったものの、既存店の入客数・客単価の改善が順調に進み、下期では営業黒字、プラスの営業キャッシュ・フローを計上することとなりました。しかしながら、通期においては、営業損失23,757千円、マイナスの営業キャッシュ・フロー25,414千円となり、5期連続の営業損失およびマイナスの営業キャッシュ・フローを計上する結果となりました。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在しております。

このような状況の解消を図るべく、当社は2022年度より中期経営計画『T-ip60』並びに『TAYA BX (Beauty Transformation) PROJECT』を策定し、財務体質の早期改善に努めております。

中期経営計画の最終年度・創業60周年となる2024年度においては、次の3つの施策を重点に取り組みで参ります。

まず、「トータルビューティカンパニーへの変革」として、スヴェンソングループ・TBCグループとの協業を通じた新サービスの導入、市場規模の拡大に向けた共同事業などを積極的に進めてまいります。また、「TAYAブランドのリブランディング」による、当社美容室のイメージ・コンセプトの刷新を行い、多様な社会、個人の美しさをより尊重した、お客様に愛され続ける美容室を目指してまいります。そして、「人的資本経営の取組を強化」として、フリーランスブランドの出店を加速、多様な人材の受け入れや働き方改革の実施、キャリアパス・評価制度改革により人材価値を最大限に引き出してまいります。

これらの収益力を増強させる施策の遂行と同時に、コストの徹底した管理を行うことにより、更なる利益の追求を図ってまいります。

資金面につきましては、引き続き取引金融機関とは緊密に連携・情報交換を行っており、必要となる資金についてもご支援いただけるよう良好な関係を継続しております。また、金融機関以外からの調達についても適宜検討を進めてまいります。

これらの状況を鑑み、現時点において、継続企業の前提に関する重要な疑義を解消すべく取り組んでいる対応策は実施途上にあり、今後の事業進捗や追加的な資金調達の状況等によっては、当社の資金繰りに重要な影響を及ぼす可能性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は日本基準による非連結決算を実施しております。今後のIFRS（国際財務報告基準）導入に関する動向を注視しつつ、適切に対応する体制の整備に努めております。

## 3. 財務諸表及び主な注記

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年 3 月31日)	当事業年度 (2024年 3 月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	386,163	277,011
売掛金	273,409	281,656
商品	36,578	26,270
美容材料	17,821	13,539
貯蔵品	5,771	6,452
前払費用	74,503	66,431
その他	50,207	41,842
貸倒引当金	△936	△991
流動資産合計	843,520	712,212
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,609,464	2,370,360
減価償却累計額	△2,295,787	△2,126,435
建物（純額）	313,677	243,925
構築物	17,895	15,970
減価償却累計額	△17,412	△15,650
構築物（純額）	483	319
工具、器具及び備品	140,001	150,450
減価償却累計額	△101,792	△115,432
工具、器具及び備品（純額）	38,208	35,017
土地	159,045	127,722
リース資産	5,604	—
減価償却累計額	△5,510	—
リース資産（純額）	93	—
建設仮勘定	—	5,060
有形固定資産合計	511,507	412,044
無形固定資産		
ソフトウェア	21,996	31,011
その他	36,097	9,362
無形固定資産合計	58,094	40,374
投資その他の資産		
出資金	160	127
長期前払費用	4,148	7,290
敷金及び保証金	947,090	831,451
その他	2,345	2,345
投資その他の資産合計	953,744	841,214
固定資産合計	1,523,346	1,293,633
資産合計	2,366,866	2,005,845

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年 3 月31日)	当事業年度 (2024年 3 月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	60,140	53,226
電子記録債務	79,581	71,390
買掛金	32,708	33,849
短期借入金	122,500	96,343
1年内返済予定の長期借入金	43,141	49,153
リース債務	93	—
未払金	121,171	79,334
未払費用	281,868	333,023
未払法人税等	36,512	31,922
未払消費税等	31,541	67,860
契約負債	102,731	34,422
前受金	550	—
預り金	16,282	43,167
賞与引当金	38,293	29,938
資産除去債務	56,866	4,851
流動負債合計	1,023,983	928,482
固定負債		
長期借入金	252,765	203,612
繰延税金負債	12,731	—
退職給付引当金	266,215	243,378
資産除去債務	194,373	172,315
その他	6,060	6,138
固定負債合計	732,145	625,445
負債合計	1,756,128	1,553,927
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	3,132,425	3,132,425
資本剰余金合計	3,132,425	3,132,425
利益剰余金		
利益準備金	66,920	66,920
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△2,479,109	△2,637,929
利益剰余金合計	△2,412,189	△2,571,009
自己株式	△159,497	△159,497
株主資本合計	610,738	451,918
純資産合計	610,738	451,918
負債純資産合計	2,366,866	2,005,845

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月 31 日)	当事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月 31 日)
売上高		
美容施術売上高	5,448,645	5,262,699
商品売上高	543,367	521,201
その他の売上高	12,912	55,960
売上高合計	6,004,926	5,839,861
売上原価		
美容施術売上原価	5,360,198	4,728,069
商品売上原価	287,273	267,954
その他の売上原価	3,375	7,274
売上原価合計	5,650,847	5,003,298
売上総利益	354,078	836,563
販売費及び一般管理費	973,966	860,320
営業損失 (△)	△619,887	△23,757
営業外収益		
受取利息	8	4
助成金収入	5,409	3,200
協賛金収入	4,327	2,336
受取保険金	2,590	1,570
その他	12,501	7,811
営業外収益合計	24,837	14,922
営業外費用		
支払利息	2,715	3,350
休止資産関係費用	—	5,304
資金調達費用	2,500	5,000
その他	2,142	5,603
営業外費用合計	7,357	19,257
経常損失 (△)	△602,408	△28,092
特別利益		
固定資産売却益	2,270	—
会員権売却益	1,554	—
特別利益合計	3,825	—
特別損失		
固定資産除却損	3,207	—
固定資産売却損	—	175
減損損失	92,817	89,619
店舗閉鎖損失	79,658	21,741
特別損失合計	175,683	111,537
税引前当期純損失 (△)	△774,266	△139,629
法人税、住民税及び事業税	34,904	31,922
法人税等調整額	△4,260	△12,731
法人税等合計	30,643	19,190
当期純損失 (△)	△804,909	△158,820

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	50,000	—	3,132,425	3,132,425	66,920	△1,674,199	△1,607,279
当期変動額							
当期純損失(△)						△804,909	△804,909
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△804,909	△804,909
当期末残高	50,000	—	3,132,425	3,132,425	66,920	△2,479,109	△2,412,189

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△159,497	1,415,648	1,415,648
当期変動額			
当期純損失(△)		△804,909	△804,909
当期変動額合計	—	△804,909	△804,909
当期末残高	△159,497	610,738	610,738

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	50,000	—	3,132,425	3,132,425	66,920	△2,479,109	△2,412,189
当期変動額							
当期純損失(△)						△158,820	△158,820
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△158,820	△158,820
当期末残高	50,000	—	3,132,425	3,132,425	66,920	△2,637,929	△2,571,009

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△159,497	610,738	610,738
当期変動額			
当期純損失(△)		△158,820	△158,820
当期変動額合計	—	△158,820	△158,820
当期末残高	△159,497	451,918	451,918

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失(△)	△774,266	△139,629
減価償却費	112,655	93,845
減損損失	92,817	89,619
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,548	△8,355
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△48,615	△22,836
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△46	55
受取利息	△8	△4
支払利息	2,715	3,350
資金調達費用	—	5,000
固定資産除却損	3,207	—
固定資産売却損益(△は益)	△2,270	175
店舗閉鎖損失	79,658	21,741
会員権売却益	△1,554	—
売上債権の増減額(△は増加)	22,013	△8,796
棚卸資産の増減額(△は増加)	20,156	13,910
仕入債務の増減額(△は減少)	△46,637	△12,340
未払金の増減額(△は減少)	△38,863	△19,555
未払費用の増減額(△は減少)	△48,643	51,154
契約負債の増減額(△は減少)	102,731	△68,309
未払消費税等の増減額(△は減少)	△32,357	36,319
その他	42,074	21,530
小計	△517,781	56,876
利息の受取額	8	4
利息の支払額	△2,778	△2,544
資金調達費用の支払額	—	△7,500
店舗閉鎖損失の支払額	△20,675	△35,737
法人税等の支払額	△41,281	△36,512
営業活動によるキャッシュ・フロー	△582,507	△25,414

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△10,833	△10,834
定期預金の払戻による収入	10,833	10,833
有形固定資産の取得による支出	△160,892	△85,210
有形固定資産の売却による収入	5,438	40,453
無形固定資産の取得による支出	△25,149	△24,238
敷金及び保証金の差入による支出	△6,609	△7,781
敷金及び保証金の回収による収入	110,190	126,326
会員権売却による収入	5,454	—
資産除去債務の履行による支出	△45,250	△58,570
その他	△2,300	△5,324
投資活動によるキャッシュ・フロー	△119,118	△14,346
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	197,000	44,500
短期借入金の返済による支出	△102,492	△70,657
長期借入れによる収入	69,000	—
長期借入金の返済による支出	△53,272	△43,141
リース債務の返済による支出	△1,820	△93
財務活動によるキャッシュ・フロー	108,415	△69,391
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△593,210	△109,152
現金及び現金同等物の期首残高	968,540	375,329
現金及び現金同等物の期末残高	375,329	266,177

## (5) 財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社は、当事業年度において、物価上昇による店舗運営コストの増加など厳しい経営環境ではあったものの、既存店の入客数・客単価の改善が順調に進み、下期では営業黒字、プラスの営業キャッシュ・フローを計上することとなりました。しかしながら、通期においては、営業損失23,757千円、マイナスの営業キャッシュ・フロー25,414千円となり、5期連続の営業損失およびマイナスの営業キャッシュ・フローを計上する結果となりました。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在しております。

このような状況の解消を図るべく、当社は2022年度より中期経営計画『T-ip60』並びに『TAYA BX (Beauty Transformation) PROJECT』を策定し、財務体質の早期改善に努めております。

中期経営計画の最終年度・創業60周年となる2024年度においては、次の3つの施策を重点に取り組みで参ります。

まず、「トータルビューティカンパニーへの変革」として、スヴェンソングループ・TBCグループとの協業を通じた新サービスの導入、市場規模の拡大に向けた共同事業などを積極的に進めてまいります。また、「TAYAブランドのリブランディング」による、当社美容室のイメージ・コンセプトの刷新を行い、多様な社会、個人の美しさをより尊重した、お客様に愛され続ける美容室を目指してまいります。そして、「人的資本経営の取組を強化」として、フリーランスブランドの出店を加速、多様な人材の受け入れや働き方改革の実施、キャリアパス・評価制度改革により人材価値を最大限に引き出してまいります。

これらの収益力を増強させる施策の遂行と同時に、コストの徹底した管理を行うことにより、更なる利益の追求を図ってまいります。

資金面につきましては、引き続き取引金融機関とは緊密に連携・情報交換を行っており、必要となる資金についてもご支援いただけるよう良好な関係を継続しております。また、金融機関以外からの調達についても適宜検討を進めてまいります。

これらの状況を鑑み、現時点において、継続企業の前提に関する重要な疑義を解消すべく取り組んでいる対応策は実施途上にあり、今後の事業進捗や追加的な資金調達の状況等によっては、当社の資金繰りに重要な影響を及ぼす可能性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。なお、財務諸表は継続企業を前提としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を財務諸表に反映していません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)及び当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

当社は、美容事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 【関連情報】

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	美容施術	商品	その他	合計
外部顧客への売上高	5,448,645	543,367	12,912	6,004,926

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	美容施術	商品	その他	合計
外部顧客への売上高	5,262,699	521,201	55,960	5,839,861

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

当社は、美容事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

当社は、美容事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

## (持分法損益等)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額(円)	122.22	90.44
1株当たり当期純損失(△)(円)	△161.08	△31.78
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純損失(△)(千円)	△804,909	△158,820
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純損失(△)(千円)	△804,909	△158,820
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,997	4,997

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 4. その他

## (1) 役員の変動

## ①代表取締役の変動

該当事項はありません。

## ② その他の役員の変動

## 1. 新任監査等委員である取締役候補者

取締役 勇 亜衣子

(注) 勇 亜衣子は、社外取締役の候補者であります。

## 2. 退任予定の監査等委員である取締役

取締役 生稲 晃子

(注) 生稲 晃子は、社外取締役であります。

## 3. 就任及び退任予定日

2024年6月18日

なお、詳細は本日発表の「役員の変動に関するお知らせ」をご参照ください。

## (2) その他

## 区分別売上高比較

区分	前事業年度 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日		当事業年度 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日		前期比較 増減(△) (千円)
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
美容施術	5,448,645	90.7	5,262,699	90.1	△185,946
商品	543,367	9.1	521,201	8.9	△22,166
その他	12,912	0.2	55,960	1.0	43,047
合計	6,004,926	100.0	5,839,861	100.0	△165,065